

果樹の害虫対策について

令和7年8月
香川県西讃農業改良普及センター

近年、地球温暖化等の影響により害虫の発生や被害が増加傾向にあり、本年は果樹カメムシ類以外の害虫が平年と比較して多い状況です。今後注意が必要な「果樹カメムシ類」と「ハダニ類」について理解を深め、早期防除に努めましょう！

1. 果樹カメムシ類の特徴・種類

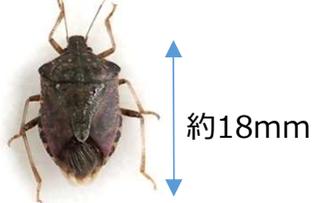
果樹カメムシ類は、果樹の果実を吸汁する害虫の総称で、主に4種のカメムシが**カンキツやナシ、ブドウなどを加害します**。吸汁されると傷ができたり、落果したりして被害を受けます。現在までは発生がやや少ない状況ですが、**今後の状況次第で9月以降発生が多くなる可能性がある**ので注意が必要です。

①ツヤアオカメムシ



約15mm

②クサギカメムシ



約18mm



③チャバナアオカメムシ



約11mm

④アオクサカメムシ



約15mm



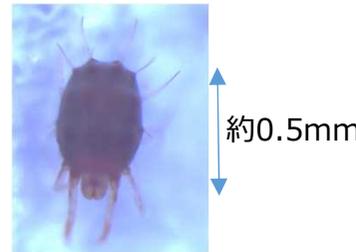
吸汁されて変形したナシ

2. ハダニ類の特徴・種類

ハダニ類は、体長が0.5mm程度の非常に小さなダニで、果樹の葉や果実の汁を吸うことで、被害を受けた箇所にかすれ症状（白っぽくなる）や葉焼け症状（黒っぽくなる）が生じ、**収穫量の減少や品質低下**を引き起こします。

今後、高温・乾燥が予報されており、ハダニ類に好適な条件が続きます。香川県病害虫防除所の発表によると、今後発生が増加する予報となっており、急激に増加する可能性があるため、防除適期を逃さないように注意が必要です。

①ミカンハダニ



約0.5mm

②ナミハダニ



約0.6mm



吸汁されたモモの葉



吸汁されたレモンの果実

防除のポイント

- ①ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となります。ほ場の葉をよく観察して早期防除に努めましょう。
- ②ダニ剤は浸透移行性がほとんどなく、**薬液がかかった部分しか効果がないため、散布ムラ無く丁寧に散布しましょう。**

【ハダニ類の防除に登録があるダニ剤の例】

ダニゲッターフロアブル、ダニオーテフロアブル
スターマイトフロアブル、コロマイト水和剤 など

防除のポイント

- ①スギ・ヒノキ等が周辺に多いほ場や、過去にカメムシ類の被害があったほ場ではカメムシ類の発生に注意しましょう。
- ②**夕方に飛来して夜間に加害するため、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行いましょう。**

【カメムシ類の防除に登録がある殺虫剤の例】

スミチオン水和剤40（有機リン剤）
テルスター水和剤（合成ピレスロイド剤）
スタークル顆粒水溶剤（ネオニコチノイド剤） など